

12がわのくもの子の会だより

〈H.26.11.28〉

師走になります。毎年、一年のすぎるのは早いものです。子ども達の飛躍成長においてとても大切な乳幼児期も、すこにすぎしてしまいます。だから、特にこの時期の貴重さを感じ、おしでも多くの子どもたち、そしてその保護者の方に出会い、これからも乳幼児期の大切さを伝えなければ...と思っています。



だから、「次は何をやらねばいいですか」と人に頼る傾向。これは将来自分でものを考えられない、世の中を自分で楽しくできない人間になってしまいます。〈Xが食える大人に育つ子ども習慣〉

くもの子の会に参加して下さる方、応援して下さる方、今年もありがとうございます。来年もよろしくお願ひします。

外遊びは、倉り造力を伸ばす決め手

—原っぱで、「何も無い」ではなく、「なんでもできる」と思う子どもは「遊びづくり」の天才です。—

子どもたちは、いつでも「どうしたら面白くなるのか」を考えているもの。自然の中で、そこにあるものを使って、遊びをつくっていくのです。

子ども達は、「遊び」をつくるのが本当に上手です。そこらへんで自由勝手に遊べます。遊び込んだ人からすれば、自在に遊びをつくるなんて朝飯前です。

でも、今は、遊び込むことを経験できていない時代になってしまいました。なんでもいからや、アタラ楽しいのに、「次は何をやらねばいいですか」と言うような子が典型的です。

悲しいかな、ゲームやテレビ番組などの娯楽サービスがあるから、自分から進んで何かをしながらも、ある程度楽しんでしまいます。考えなくても楽しめる。何もなくても周りが勝手に楽しませてくれる。不自由さを経験していないがゆえに、自分で考え、工夫を有ることに慣れていないのです。

まずは、大人が遊びます！

外で遊ぶのに、特別なものはいいません。たいてい原っぱでも、石がゴロゴロある川でも、木の生い茂った森の中でも、遊ぶことはできます。むしろ外には遊びの材料がたっさんあるのです。

遊び込む経験とは、ただ遊ぶことではありません。自分の中で「これは本当に面白かった！」という感覚を持つことが目標。そのためには、本人が考え、工夫をするのが大切。(後略)



小さい時にはお母さんに甘えるのが子どもの仕事です。お母さんと一緒にいて、安心を経験する中で、はじめて「私」が育つからです。「私」が育つ前に、文字とか英語とかの知識が植えつけられた子どもは、一見、賢そうに見えても、「心」が空洞のま子になりやすいのです。子どもの育ちには順番があります。昔の人が教えてくれた通り、身体が育ち、心が育ち、頭が育つという順番を大切にしていってこそ子どもを育てていくのには、ふさわしいのだと思います。(親子の絆を深める道程 刊)

◎今年度にはいりくもの子の参加者が増えたとのことですが、11月に新たに集まり始めて、またいい波がきはじめたように感じています。ありがとうございます。